

東日本支部だより

2021年3月5日発行

Newsletter of the East Japan Chapter, the Society for Research in Asiatic Music

今後の例会予定

第120回 定例研究会

2021年3月13日(土) オンライン開催

卒論・修論発表

第121回 定例研究会

2021年4月10日(土) オンライン開催

卒論・修論発表

第122回 定例研究会

2021年6月5日(土) オンライン開催

博論発表

※詳細は下記↓↓↓(■定例研究会のお知らせ■)をご覧ください。

○卒業論文発表(その1)

1. 21世紀のブルガリアン・エスノポップス
—ポップフォークとの音楽的特徴および演出方法の比較を中心に—
玉置 彩乃(東京藝術大学)
2. 「おわら風の盆」における胡弓に関する考察
—胡弓使用のはじまりと演奏を中心に—
高津 萌子(東京藝術大学)
3. ミャンマーの複簧管楽器フネーの楽器誌
—現在のフネーとその成立—
澁谷 風司(東京藝術大学)
4. 戦前の日本における楽譜出版について
—シューマン作曲《トロイメライ》の出版楽譜を中心に—
石橋 美悠(お茶の水女子大学)
5. 中学校音楽科教科書における西洋音楽の取り扱い
の特徴—鑑賞領域を中心に—
井上 ひかり(お茶の水女子大学)
6. 北海道の七夕行事「ローソクもらい」の囃子歌に見られる地域差について
佐々木 優香(お茶の水女子大学)

■定例研究会のお知らせ■

◆東日本支部 第120回定例研究会

時 2021年3月13日(土) 13:00~16:10

所 Zoomによるオンライン開催(事前申込制)

申込締切 2021年3月6日(土)

申込方法の詳細は支部HPでご確認ください。

お申込後にミーティングコード等をお送りします。



東洋音楽学会
東日本支部 QR コード

○修士論文発表（その1）

7. 日本伝統音楽の特性に配慮した音楽科の学習
—雅楽の授業実践分析と授業デザインの提案—
李 翔（横浜国立大学大学院）
8. 中部ジャワのスラカルタ様式のガムランにおけるシン
デンの型の考察
—採譜によるリズム構造の分析から—
今泉 佳奈（東京藝術大学大学院）
司会 井上 貴子（大東文化大学）

◆東日本支部 第121回定例研究会

時 2021年4月10日(土) 13:00～16:10

所 Zoomによるオンライン開催(事前申込制)

申込締切 2021年4月3日(土)

申込方法の詳細は支部HPでご確認ください。

お申込後にミーティングコード等をお送りします。



東洋音楽学会
東日本支部 QR コード

4. 1970年代後半のフェラ・クティのアフロビート楽曲に
おける社会・政治的メッセージの音楽的表現
井上 環（東京藝術大学）
5. 黛敏郎の「ヨーロッパ音楽への訣別」の試みとその
帰結
倉地 真梨（奈良女子大学）
6. 音楽を中心としたアートプロジェクトの考察
—岩手県遠野市における「限界芸術」の比較から—
篠原 美奈（東京藝術大学）

○修士論文発表（その2）

7. 童謡《青い眼の人形》の功績
—日米親善で果たした役割—
壽美 玲子（洗足学園音楽大学大学院）
8. 1920年代までの上海の中国人社会における社交
ダンス—ジャズ受容の基盤として—
陳 麟（東京藝術大学大学院）
司会 東田 範子（東京藝術大学）

備考: 上記の発表順序などに万一変更が生じた場合は、
支部HPでお知らせします。

○卒業論文発表（その2）

1. 大正・昭和初期の童謡について
—山田耕筰の童謡を中心に—
赤井 とも香（お茶の水女子大学）
2. 中山晋平作品における「歌声」
—新民謡運動期の創作活動とその理念に焦点を
あてて—
長谷川 由衣（東京藝術大学）
3. 民謡の観光資源化—《草津節》を例に—
原田 笑加（東京藝術大学）

■定例研究会の報告■

◆東日本支部 第118回定例研究会

時 2020年12月12日(土) 13:00～14:00

所 Zoomによるオンライン開催

司会 ヘルマン・ゴチェフスキ(東京大学)

○研究発表

1. 川上音二郎の初期作品における音楽演出

土田牧子(共立女子大学)

(発表要旨)

川上音二郎(1864-1911)は、明治二十年代より書生芝居と呼ばれる芝居を始め、新派の始祖、新劇の開祖とも言われる。政談演説に始まる活動は多岐に及び、妻の貞奴とともに海外で脚光を浴びたこともよく知られる。川上が俳優または興行師として手掛けた芝居は、書生芝居、戦争劇、正劇と称した翻案劇、お伽芝居(童話劇)など様々である。

川上音二郎については早くから研究が重ねられ、近年も在外資料を含む一次資料の精査によりその動向の真相が詳らかになっている。一方で、彼の手掛けた演劇の実態については、その全貌が把握されているとは言えない。書生芝居を始めた当初から、川上の芝居はその写実味が評価され、歌舞伎とは一線を画した芝居であったと伝えられる。それは具体的にどのように歌舞伎と違っていたのか、あるいは似ていたのか。

本発表では上記のような疑問に端を発し、川上の初期の作品、すなわち明治23(1890)年の東京進出から日清戦争劇が人気を博した明治27～28年の間に上演した作品を対象とし、早稲田大学演劇博物館が所蔵する川上芝居の台帳を資料として音楽演出に関する記述を検証した。『経国美談』(明治24年6月)など最初期の作品群では、浄瑠璃や独吟、唄、合方などの歌舞伎的な用法を多用する場面が多数確認できた。『壯絶快絶日清戦争』(明治27年7月)の頃になると、効果音的な用法が主になってくるものの、ラッ

パや砲声の音とともに〈流行唄〉や〈時の太鼓〉など歌舞伎の黒御簾で常套の用法もまだ使われていることが確認できる。例外的に、初期の『板垣君遭難記』(明治24年6月)では音楽がほとんど使われないが、現存台帳が一場のみであるため、全体像の把握が必要な旨を指摘した。

最終的には、川上の芝居が歌舞伎的なものから脱却していく様相の一側面として音楽演出を捉えることができるのではないかとし、今後の展望とした。

(傍聴記: 大西由紀)

本発表は川上音二郎の初期作品について、歌舞伎との相違点と継続性を明確にするため、特に音楽演出に着目して実態を解明しようとしたものである。ここで「音楽演出」と称するものには、和洋の伴奏音楽のほか、効果音なども含まれる。

発表では、明治24～28年の複数の演目の台帳の精読を通じて、最初期のいわゆる書生芝居が、黒御簾音楽や竹本など歌舞伎の常套的表現を多用していたのに対し、日清戦争劇の時期にはこうした表現が減り、ラッパや砲声といった写実的な効果音が増えていく、という大まかな流れが示された。ただし土田氏は発表の最後に、今回の分析対象作品の中で最も初演の早い『板垣君遭難実記』(明治24年)の現存する台帳には、音楽演出の指示がほとんどなかったことを指摘し、安直な図式化には慎重な姿勢を見せた。

調査の不十分な箇所や、資料ごとの記述の食い違いが率直に示されたほか、音楽演出以外の注目すべき点も多数指摘された。研究の困難さとそれゆえの面白さが伝わってくる、臨場感あふれる発表であった。

(今号では、2020年12月に開催された第118回定例研究会の研究発表を報告しています。2021年2月13日(土)に開催された第119回定例研究会の報告は、次号の支部だより第56号(6月下旬発行)に掲載いたします。)

■会員の声 投稿募集■

1. 次号締切:2021年5月20日(6月旬発行予定)
2. 原稿の送り先および送付方法:
東日本支部事務局(メール)
E-mail: tog.higashi@gmail.com
3. 字数・書式: 25字×8行以内(投稿者名明記のこと)
4. 内容:会員の皆様に知らせたいと思う情報

(1) 催し物・出版物などの情報

研究会、講演会、演奏会、CD、DVD、書籍出版、展示、見学会などの情報。

(2) 学会への要望や質問

支部例会、大会、機関誌など、学会に対する感想や要望。

※原稿の採否は「支部だより」担当者にご一任下さい。編集の都合上、お送りいただいた原稿に多少手を加えさせていただきます。ご了承ください。

(東日本支部だより担当)

■定例研究会発表募集 (7月例会)

東日本支部では、会員の皆様による活発な研究活動のため、定例研究会での研究発表を募集しております。発表をご希望の方は、発表種別(研究発表・報告等)、発表 題目、要旨(800字以内)、発表希望月、氏名、所属機関、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail)を明記の上、4月30日までに東日本支部事務局(tog.higashi@gmail.com あてメール添付)までお申込み下さい。発表希望を提出後1週間経ても東日本支部事務局から連絡がない場合には、メール事故等の可能性がありますので、お手数ですが再度ご連絡ください。なお、7月を含む年内の全例会はオンライン開催を予定しております。発表者の皆様にもこれに合わせたご対応をお願いしますので、あらかじめご了承ください。

■東日本支部委員会からのお知らせ■

昨年11月の学会総会後、2020・21年度の東日本支部委員会の役員が下記の通り決まりました。支部は新潟、長野、静岡以東の都道府県の範囲の会員で構成されています。皆様からの例会企画、ご意見、ご要望などお待ちします。支部専用アドレス(tog.higashi@gmail.com)まで、どうぞお寄せください。

【支部長】尾高暁子

【支部担当理事】奥山けい子

【経理担当】尾高暁子、田辺沙保里

【ホームページ、ML管理】佐竹悦子

【支部だより担当】倉脇雅子、齊藤紀子、佐藤文香

【例会担当】〈理事〉奥山けい子、尾高暁子〈委員〉井上貴子、海野るみ、金志善、黒川真理恵、越懸澤麻衣、田中(配川)美加、デュラン・ステファン、東田範子〈参事〉岩崎愛、小尾淳、澤田聖也、曾村みずき、武田有里、鄭曉麗、増田久未

■編集後記■

オンライン例会につきましては、関係各位の皆様のご尽力に感謝を申し上げます。東日本支部では、今後も研究発表や企画など皆様からのお申込みをお待ちしております。(MK)

発行: 一般社団法人 東洋音楽学会 東日本支部

編集: 奥山けい子、尾高暁子

倉脇雅子、齊藤紀子、佐藤文香

〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル 307号

東洋音楽学会東日本支部事務局

E-mail: tog.higashi@gmail.com
